

# 鳥海イヌワシみらい館通信

Vol. 6 2013 春号

発行：猛禽類保護センター（愛称：鳥海イヌワシみらい館）

〒999-8207 山形県酒田市草津字湯ノ台 71-1 TEL 0234-64-4681 FAX 0234-64-4683  
<http://www.raptor-c.com> E-Mail: [moukin@raptor-c.com](mailto:moukin@raptor-c.com)



「オジロワシ」撮影：アクティंगレンジャー 長船裕紀

オジロワシは冬にやってくる大型のワシタカの仲間で、翼開長は 220cm を超えるイヌワシよりも大きいワシです。夏場は北海道やユーラシア大陸の北部に生息し、冬になると日本の本州にも渡って来ます。海や川などの水のある場所を生活圏にしている海ワシで、そこに生息する魚類や、水鳥を主な狩りの対象にしています。生息数が多くないので、見られるかは運次第なのですが、気候も冬らしくなってきた 11 月下旬、酒田市のとなり、三川町の赤川沿いの木に止まっているのを見つけました。

普段見るワシタカ達とはちょっと雰囲気の違いがあるワシですから、会えただけでも嬉しくなりますね。タイミングが良ければ川にいるカモたちをねらって狩りをするエキサイティングな姿も見ることができます。観察できる時期は 11 月下旬から 3 月上旬頃までの短い期間になりますが、こうした希少な猛禽類たちも山形県の豊かな自然を利用しているのです。



## ～バードウォッチングへの誘い～ 第6回 花より猛禽



今年も雪がすごかった東北地方。各地で最大積雪深が更新されていましたが、急激に暖かくなったり寒くなったりを繰り返している変な気候です。ワシタカ達もとまどっているのではないかと心配です。だんだんと桜前線も北上していますが、ワシタカファンにとっては渡り前線が気になる季節ですね!

(絵：普及啓発担当 本間)



### ←「ハチクマ」

大きさ：トビと同じくらい  
遠く東南アジアから  
数千キロもの距離  
を渡ってきます。

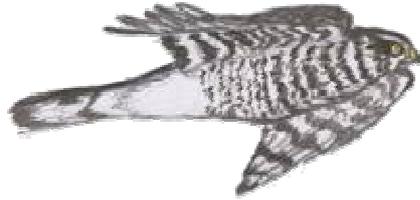
### 「サシバ」→

大きさ：ハシブトカラスと同じくらい  
沖縄などの南西諸島では  
留鳥として観察できます。



### 「ノスリ」→

大きさ：カラスと同じくらい  
冬でも見かけますが、  
短い距離を移動する  
ことがわかっています。  
電柱の上などに注目。



### ↑「ハイタカ」

大きさ：ハトと同じくらい  
留鳥性が強いとされるタカ  
ですが、冬季にエサの事情  
が悪くなる地域ではエサ  
のとれる場所へ移動したり  
南へと渡るものもいます。



### ←「オオタカ」

大きさ：カラスと同じくらい  
森や河川敷でも観  
察できます。留鳥と  
して生息しているも  
のがありますが、渡り  
をするものもいま  
す。



鳥海イヌワシみらい館  
マスコットキャラクター  
「ワッペン」

## イヌワシってどんなワシ? ⑤ 「イヌワシの食べ物」

ここ猛禽類保護センターには「鳥海イヌワシみらい館」という愛称がついていますが、イヌワシってなに? と思う人や図鑑でしかイヌワシを見たことがない人もいられるかもしれません。そこでシリーズ5回目は「イヌワシの食べ物」について紹介します。

私たち人間は野菜やお肉、何でも食べる雑食の生き物ですが、イヌワシたち猛禽類は何を食べるのでしょうか? イヌワシの属する猛禽類は肉食であるということが定義になっています。しかし猛禽類の仲間にもそれぞれに好物があります。肉だったらなんでもよいわけではありません。たとえばハヤブサはヒヨドリなどの小鳥を、ミサゴはお魚、ハチクマはハチの幼虫といった具合です。ではイヌワシはというと、大きな体のイヌワシは効率よく一度の狩りで満腹になるように大物ねらいが基本です。その対称になるのがノウサギ、ヤマドリ、ヘビといった生物ですが、最も大きい獲物では特別天然記念物カモシカの幼獣も捕まえているとか! さすが山岳の王者といわれるだけのことはありますね! 特にノウサギは獲物の中では圧倒的な比率を占めています。仮にイヌワシ一家(♂、♀、幼鳥の3羽)が1年間ノウサギだけを食べて生きるとすると、約700羽を捕らなければなりません。そのノウサギたちが生息するためには東京ドーム2000個分もの豊かな自然環境が必要となるのです。さて、最近テレビでトビが油揚げを持って飛んでいる姿が紹介されていますが、そんなトビも最も身近な猛禽類の仲間。ん? 油揚げって大豆からできてますよね...。大豆も「畑のお肉」って言われているくらいですからギリギリセーフとしましょうか。幅広い猛禽類の世界です。



天然記念物が天然記念物を襲うのです。  
撮影：長船裕紀

# イヌワシが見られる動物園⑤「大阪市 天王寺動物園」

「イヌワシを見てみたい!」けれども野生のイヌワシに出会うことはなかなかむずかしいものです。確実にイヌワシの姿を見てみたい人や、間近にイヌワシを見てみたい人は動物園に行ってみましょう。第5回目は、大阪市「天王寺動物園」です。イヌワシ飼育担当の青野久雄さん、原田勉さん、村田行雄さん、松島佳清さん、片野田晃さんへ伺いました。

Q. 現在飼育中のイヌワシについて教えてください。  
 『朱鷺(とき)』(♂: 14歳)と『姫神(ひめかみ)』(♀: 10歳)と『疾風(はやて)』(亜種不明♂: 推定14歳)の3羽を飼育しています。」

Q. 天王寺動物園ではいつからイヌワシを飼育しているのですか。  
 「1915年開園時に飼育動物リストに記載があります。」

Q. 天王寺動物園でのイヌワシ飼育の特徴は何ですか？  
 「猛禽舎の一番広い展示室に飼育し、繁殖を目指しています。扇形で間口12m、奥行き16m、高さ8.3mあり、奥が擬岩で岩山になっており、岩棚に営巣スペースがあります。」

Q. 西日本では特に野生下でのイヌワシの減少が危惧されていますが、飼育員さん自身どのように感じていますか？  
 「絶滅しないよう願っており、動物園では域外保全を行うことが重要と考えています。また野生下で減少しているニホンイヌワシを繁殖させることは、重要なことであり、日本にこのようなワシが生息していることを一般の人たちに知っていただくことは重要だと思います。」

Q. 飼育員さんが思うイヌワシの魅力について教えてください。  
 「鋭い眼光、鋭い爪、鋭い嘴です。」



Q. 飼育で気をつけていることは何ですか？  
 「営巣時期は驚かせないように注意しています。毎年2月初めには営巣行動が見られますが、昨年までは産卵は確認されませんでした。今年は3月11日から着巢しており、産卵しているものと思われます。毎年、営巣時期になると猛禽舎裏の園路を通行止めになります。」

Q. 来場される方に一言お願いします。  
 「動物たちの生の姿に触れ、その魅力を感じ取ってください。」

都会の真ん中で、緑のオアシスとして多くの方に親しまれている大阪市天王寺動物園は、日本で最も歴史のある動物園の一つです。イヌワシ以外の猛禽類では、珍しいコンドル類の飼育展示を中心に12種20羽という猛禽類ファンも納得の展示内容です。天王寺動物園では動物の生息地の景観を再現して展示する「生態的展示」の手法を用いた施設整備を進めており、爬虫類生態館「アイファー」、アフリカサバンナゾーンとアジアの熱帯雨林ゾーンなどで、いきいきとした動物たちを見ることができます。ゴールデンウィークには家族で天王寺動物園に遊びに行ってみましょう!

**大阪市 天王寺動物園**  
 〒543-0063 大阪府大阪市天王寺区茶臼山町 1-108  
 TEL 06-6771-8401  
 開園時間: 9:30~17:00 (入園は16:00まで)  
 (5月、9月の土日祝祭日は18:00まで開園。入園は17:00まで)  
 入園料: 大人500円(団体割引有り)  
 小中学生200円  
 大阪市内在住・在学及び大阪市(市外含む)の学校に在学の小中学生、大阪市内在住の65歳以上の方、身体障害者手帳等をお持ちの方は無料(証明となるものをお持ちください)  
 休園日: 毎週月曜日(祝祭日の場合は翌日の火曜が休園)、年末年始(12月29日~1月1日)





# 平成 25 年度 鳥海イヌワシみらい館 観察会・イベント予定



回	開催時期	観察会、イベントタイトル（仮）と内容
1	5月3日(金)～6日(月)	『ゴールデンウィーク体験企画』 ① 蜜ろうそくを作ってハチクマの秘密を知ろう! ② ワッシーくんのペーパークラフト
2	5月26日(日)	『春の渡りを見よう!』 春にやってくるワシ・タカの仲間を鳥海山周辺で観察します。
3	6月23日(日)	『ワシタカ入門』 身近で見られるワシタカから、里山などいろいろな環境で暮らすワシタカたちを観察します。観察方法やワシタカの魅力を伝えます。
4	7月21日(日)	『ワシ・タカスクール』 ネイチャーゲームを通してワシタカを知ろう!
5	7月20日(土)～ 8月18日(日)	『夏休み体験屋台村』 ①蜜ろうそく作り②エコバッグ作り③ペーパークラフト④鳥海山を作ろう、など家族で楽しめる体験プログラムが盛りだくさん! みんなで来てね!
6	9月下旬	『秋の渡りを見よう!』 秋にやってくるワシ・タカの仲間を鳥海山周辺で観察します。
7	10月上旬	『2日間のイヌワシ観察会』 秋田市大森山動物園と鳥海山南麓にて2日間に渡ってイヌワシを観察します。
8	11月中旬	『探訪! 最上川河口鳥獣保護区』 河口、水田、海岸など多様な環境を含む国指定最上川河口鳥獣保護区。そこにすむ小鳥や水鳥、猛禽類といった様々な鳥たちを観察します。
9	2月中旬	『冬のワシタカ探し』 冬にやってくる大型のワシタカの仲間を観察します。

※日程及び内容は変更になることがあります。詳細は開催日の1ヶ月前に鳥海イヌワシみらい館のホームページや、酒田市広報にてお知らせします。

## ワッシーくんが、国連生物多様性の10年日本委員会 (UNDB-J) 生物多様性キャラクター応援団の団員に任命されました!

生物多様性の普及啓発や、保全の取り組み、持続可能な利用の推進を目的とし、多様な分野との連携を図るためのプロジェクト、それが「国連生物多様性の10年日本委員会 (UNDB-J)」です。なんとその応援団に、鳥海イヌワシみらい館のマスコットキャラクター「ワッシーくん」が任命されました! 「ワッシーくん」の「くん」は敬称ではなくて名前ですから「ワッシーくんの」として任命状を頂きました(笑)。今後様々な活動を通して、皆さんにイヌワシの保護の取り組みや、生態についての普及啓発活動を行っていきますので宜しくお願いします。



# 長船が行く

## 庄内地域野鳥めぐりの巻



猛禽類保護センター周辺では、4月になっても数日雪の降る日があり、まだまだ朝晩は寒い日が続いています。それでも日に日に残雪は小さくなっており、姿をのぞかせるフキノトウが春を感じさせてくれます。3月下旬にヒバリやツバメを、4月上旬にノビタキやサシバも確認出来ました。今回、当コーナーでは1月～4月にかけて、庄内地域で観察できた野鳥を紹介します。庄内地域は山、里、川、海を網羅し、多様な景観と四季の変化の中に様々なドラマを見ることが出来ます。そこには庄内だからこそ出会える様々な野鳥がいます。留鳥や冬鳥はもちろん、夏鳥など色とりどりの野鳥をご覧ください。(写真：長船裕紀)

A：フキノトウのいる風景（遊佐町）、B：赤川（三川町）、C：大浜（酒田市）、D：サシバのいる風景（旧平田町） →



2013/1/12 ハマヒバリ

海辺の雪原で一糸懸命地面を掘り返していました。いったい何を食べているのでしょうか。角状の冠羽がとてもチャーミングですね。撮影：酒田市大浜



2013/1/13 ハジロカイツブリ

まるで血走っているかのごとく、赤い目が気の毒ですが、余計なお世話と言わんばかりのふてぶてしい目つきでチラ見されました。撮影：酒田市大浜



2013/1/13 ユキホオジロ

なんと愛くるしい姿。山形県では酒田市ならではの冬鳥です。私は初めて見ました。また来シーズン会えたらいいな。撮影：酒田市大浜



2013/1/14 オオタカ

ちらつく雪の中のオオタカはとても絵になりますね。鋭い眼光はさすがオオタカです。このあと狩りをしました。失敗したようですが。撮影：三川町赤川



2013/1/26 ミコアイサ

パンダ君といわれる冬鳥のカモの仲間です。激しい濃霧のせいか、普段より警戒しませんでした。撮影：酒田市京田



2013/1/27 ハチジョウツグミ

これが垂種ハチジョウツグミというらしい。垂種ツグミより全体的に赤褐色で、黒みが少ないのが特徴です。翌日も同じところで見ることが出来ました。撮影：三川町



2013/2/17 アカゲラ

最上川沿いに探鳥をしていたら、河畔林にいました。頭の赤い部分が見えにくいですがオスです。撮影：酒田市最上川



2013/2/27 オオアカゲラ

アカゲラよりも一回り大きく、オスの頭の赤くなる部分も広いのが特徴です。なかなか会えない鳥ですが、猛禽類調査中に近くの木に止まっていました。撮影：酒田市八幡地区



2013/3/3 オオハクチョウ

畑の収穫しなかった白菜を食べに来ていました。「むしゃむしゃ」という音が聞こえてきました。もはや畑はハクチョウの餌場となっていました。撮影：三川町



2013/3/12 ヒメウ

日本産のウの仲間では最小で、黒色の中に青色や紫色にも見える鮮やかな光沢です。山形では冬鳥で、この日がシーズン最初で最後の出会いでした。 撮影：酒田市北港



2013/3/15 キジ

猛禽類調査地での移動中、道路を横断するキジがいました。即座にクマタカが舞い降りて来ないかと期待してしまいます。 撮影：酒田市八幡地区



2013/3/16 ダイシャクシギ

冬の間もずっと大浜にいたようです。何日も暴風雪の日を耐え抜いて、凄まじい根性をしています。とてもセクシーなボディーラインです。 撮影：酒田市大浜



2013/3/20 ハマシギ

まだ冬羽ということもあり、とても地味です。5月頃には赤みを帯びて少し鮮やかになります。山形には旅鳥として飛来します。 撮影：酒田市大浜



2013/3/24 ケリ

「ケリケリケリケリ・・・」と鳴きますケリ。庄内では繁殖はしないそうで、移動中立ち寄ったのでしよう。東北だけにいると、なかなか会えない鳥の一つです。 撮影：酒田市八幡地区



2013/3/29 クマタカ

調査中に出現した、メスと思われる個体です。遠くから徐々に近づいてきて、数十メートル上空を通過していきました。何度見ても興奮させてくれる鳥です。 撮影：酒田市八幡地区



2013/3/31 オンドリ

オンドリが番でいました。このあとハタカが近くを飛翔したため、メスを置き去りに飛んでいってしまいました。 撮影：酒田市通越堤



2013/4/5 アオサギ

水田でアオサギがハタネズミを捕まえました。その直後、近くで見ていたトビに、よこせと言わんばかりに追いかけまわされ、トビに横取りされてしまいました。 撮影：遊佐町



2013/4/5 ジョウビタキ

全国的には、日常生活でも見る機会の多い冬鳥だと思いますが、虫を好むので山形では雪の消える3月や4月の方がよく見られるかもしれませんね。 撮影：酒田市平田地区



2013/4/6 サンバ

前日、シーズン初見のサンバと出会い大興奮。翌日(休日)も探しに行きました。ハタネズミでしょうか、このあとクイツと丸呑みしてしまいました。 撮影：酒田市平田地区



2013/4/6 チョウゲンボウ

営巣場所を見つけました。頻繁に交尾を繰り返し、情熱的な昼を過ごしていました。交尾直後オスが飛び立ったシーンです。メスはかなり体をそり返すんですね。 撮影：遊佐町



2013/4/9 トビ

トビが水田にまかれた生ゴミを食べていました。ミカンも食べるようです。餌資源の選択の幅は見事ですが、残念にも感じます。 撮影：酒田市八幡地区



